

問題発見型／解決型学習(FBL/PBL)
テーマ提案（学生募集内容） / Project Proposal

テーマ名称 Project name	オンライン調査データで読み解く京都府 Know about Kyoto Prefecture through an online survey
実施責任者 Instructors	教育学研究科 教育科学専攻 特定准教授 高橋雄介 教育学研究科 教育科学専攻 准教授 野村理朗 情報学研究科 数理工学専攻 助教 佐藤彰洋 デザイン学ユニット 特定助教 北雄介
実施協力者 Collaborators	なし
テーマの背景 Background	<p>本演習の目的は、オンライン調査を自分たちでデザインして実際に実施し、本学府のある京都府についてより深く理解し、これまで適切に知られていなかった可能性の高い事実関係について確認することである。</p> <p>京都は世界に冠たる観光都市ではあるが、独自の調査を実施することによって新たに見えてくるかもしれない京都府の特徴とは何だろうか。あまり知られていない事実関係に焦点を当て、それを炙り出すための調査計画を適切にデザインしたうえで実際に実施し、得られた結果について包括的に議論を行う。これらのことを通じて、既存の視点にとらわれない新たな視座を獲得するためのプロセスについて考え、その課題を解決するための発想の仕方や調査デザイン・統計解析方法の修得を目的とする。</p>
実習の概要 Overview	<p>本演習では、視聴率を題材にして、データサイエンスの実習を行う。具体的には、(1)機材を用いずに京都府下の視聴率を評価する方法について考え、(2)京都府下における視聴率に代わる指標について考え、(3)データ中心科学の講義を受けたのち、実際にデータから京都府の特徴を描き出してそれを数分の番組として放映することを想定した番組制作提案を行う、という3つのテーマワークを実施する。(もしデータ分析の結果興味深い知見が得られた場合には実際に放映される可能性もある。) 本実習はそれぞれの専門分野の特徴を活かした着眼が可能であり、問題解決のための議論の幅を広げるためにできる限り多くの分野からの学生の参加が期待される。</p> <p>In this course, we will have a practical experience based on data science about the viewing rate. The outline of this course is as follows. First, students design a couple of online survey plans to evaluate the viewing rate in the Kyoto Prefecture without any use of technical equipment, and discuss them within a group. Second, students are required that they engage in divergent thinking on alternative measure of ordinal viewing rate, and then discuss and share the newly emerging challenges. Third and finally, after listening to an academic talk on data-centric science, students illustrate the relatively unknown characteristics of Kyoto prefecture based on empirical data, and make a practical proposal to produce a few minutes of TV program. This course focuses on making full use of the characteristics of each background of students. In order to expand the range of discussion for problem solving, the instructors expect and encourage student participation from as many research backgrounds as possible.</p>
実施計画、実施場所 Schedule, location	吉田キャンパス。詳細は実施計画を参照。

履修条件 Conditions for participation	特になし。
募集人数 / Number of participants	3 名以上, 10 名以下。
1 次募集締切 Application deadline	10 月 7 日 (水)
応募資格 Intended participants	デザイン学履修者。デザイン学履修者以外でも, 意欲ある大学院生, 研究者は応募可能。但し, 応募多数の場合にはデザイン学履修者を優先する。
応募方法 How to apply	デザイン学公式 Web の FBL/PBL のページ (下記) から参加申込を行うこと。 http://www.design.kyoto-u.ac.jp/activities/fbl_pbl/
参加者の決定 Decision of participants	10 月 13 日 (火) までにメールで参加の可否を通知。 ※1 次募集で参加不可となった者を主な対象として 2 次募集を行う (10 月 14 日～16 日)。参加者枠に余裕のあるテーマに応募可能。(原則として先着順)
問題発見や解決に用いるデザイン理論やデザイン手法 Design theories and methods for framing and solving problems	心理学的な研究法(実験法・調査法等), 統計分析。
理論や手法の学習方法 How to study theories and methods	以下の書籍を本実習の参考図書とする。 心理学(一般/研究法)に関する参考図書 <ul style="list-style-type: none"> • 南風原朝和・下山晴彦・市川伸一『心理学研究法入門—調査・実験から実践まで』(東京大学出版会) • 高野陽太郎・岡隆『心理学研究法—心を見つめる科学のまなざし』(有斐閣アルマ) • 今井久登・工藤恵理子・石垣琢磨・平林秀美『心理学をつかむ』(有斐閣) 心理統計学に関する参考図書 <ul style="list-style-type: none"> • 南風原朝和『心理統計学の基礎』(有斐閣アルマ) • 森敏昭・吉田寿夫『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』(北大路書房) • 足立浩平『多変量データ解析』(ナカニシヤ出版)
成果の公開方法 Publication of the results	実習中にテーマの内容・検討状況・結果や考察・それらから導かれる提案内容などを含む 1 ページの Web サイトを作成する。それらはデザイン学の Web サイト上で公開される。
成績評価方法 Evaluation	出席 30%, 期末課題 30%, 活動状況 (理論や手法の修得状況) 40%をベースにして総合的に判断する。
特記事項 Special remarks	期末課題は, 各人が個別に作成のうえ提出すること。期末課題は, 各テーマに沿って, 問題と目的・方法・結果・考察という一般的なレポートの形式を採用し, 1 ページ目に A4 判 1 枚以内で要旨を記したうえで, 本文は 5～10 枚程度で記述すること。また, テーマに関する質問があればメールで受け付ける。宛先: 教育学研究科・高橋雄介 takahashi.yusuke.3n_at_kyoto-u.ac.jp

実施計画 / Schedule

コマ Unit	日程 Date	場所 Location	実施内容 Content
1-3	10月20日(火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 1: 視聴率に関する調査をデザインする(高橋) ・ 視聴率調査の実際 ・ 機材を使わずに視聴率を測定する ・ オンライン調査をデザインする(1)
4-7	10月27日(火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 2: 視聴率に代わる指標を考える(高橋・野村) ・ 視聴率だけでは測れない番組の影響度 ・ 番組の影響度や波及効果を測定する
8-10	11月17日(火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 3-1: データ中心科学とは何か(佐藤・高橋) ・ ミニ講義: データ中心科学とは何か ・ 事例紹介: NHK データなび ・ データ分析とデータの可視化の実習 ・ データから分かること/分からないことを理解する
11-13	11月24日(火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究2号館	テーマワーク 3-2: 京都府をデータで紐解いて番組を提案する (高橋) ・ 京都府下の情報をデータから紐解く ・ 情報から分かったことをまとめて数分の番組を作成することを想定して提案を行う
14-15	12月15日(火) (調整可能)	吉田キャンパス 総合研究2号館	最終報告会: 実験・調査結果の個人報告と議論(高橋・野村)